横須賀日日新聞
YOKOSUKA NICHINICHI SHIMBUN
市民記者がつくる
発行所：神奈川新聞横須賀支社 〒238-0004 横須賀市小川町21-9 TEL.046(822)2020 FAX.046(823)3845 yokosuka@kanagawa-np.co.jp
神奈川新聞のご購読申し込みはフリーダイヤル 0120-446-709。1週間のお試し読みも受け付けています。購読料1カ月3,189円
第50号
平成28(2016)年5月1日発行

INDEX

2 オペラの楽しさ伝え
3 「百日大荒行」成満の僧
4 これが、わたしの木！

横須賀日日新聞　第50号
2016年5月1日

あなたが地域の主人公　13

テーマ：計画された偶発性
（出会いを求めて積極的に）

※許可を得て掲載しています。

あなたが地域の主人公 13

計画された偶発性

最近、わが意を得たりという言葉に2つ出合った。神奈川各地で行われた「企業×NPO×大学パートナーシップミーティング」の成果共有会でのこと。講演者のソーシャルコーディネート神奈川の手塚明美さんが使われた「計画された偶発性」という言葉。

元々は個人のキャリア形成理論。社会的成功を収めたビジネスパーソンのキャリアを分析したところ、約8割が「現在のキャリアの成功は、予期せぬ偶然によるもの」という結果が導き出されたという。手塚さんはこの言葉を、企業・NPOなど異なる主体がマッチングする際の心得として語られた。

もう一つ、先月紹介した横須賀商工会議所が進める「新生・横須賀実践フォーラム」のキャッチコピーは「走りながら考える」。この言葉も私の好きな言葉だ。

出会い求めて積極的に

企業の活動理論としていいのだろうかと思う人もいるだろうが、〝新生〟のためにあえてこの言葉を使った冒険心がすごいと思った。

お隣、逗子市では毎年「子どもフェスティバル」を行っている。市民団体だけでなく企業が一緒に参加しているのが特徴的だ。ことしの目玉はトヨタ自動車の参加。水素自動車のMIRAIの展示とともにポスター費の協賛や子どもたちの描く未来絵などでタイアップした。

実行委員会の村川真理子さんは「最初のきっかけは、横須賀で行われたパートナーシップミーティングで偶然同じグループになったこと。そこからどんどん話が広がりました。フェスティバルはいつもこんな感じ。計画などはなく、企業もNPOも関係ない。子どもたちのために何かやりたい人と人がつながって大きくなりました」と語る。

3月26、27日に行われた逗子市の子どもフェスティバル。
多くの市民団体・企業が参加した=逗子市民交流プラザ

「計画された偶発性理論」の提唱者クランボルツ教授は、成功に至る偶発的機会を得るためには、「好奇心・持続性・楽観性・柔軟性・冒険心」が必要という。

NPOの特徴である「社会課題に対して先駆的に迅速に柔軟に多様性をもって自主自立して行動すること」と実に相性がよい理論だ。

PDCAも大切だが、PLANに縛られて偶然の出会いを避けてはいけないし、待っていても出会いは訪れない。風薫る5月、NPO・市民団体のみなさん、多くの出会いをつくるために積極的に外に出てみませんか。

（横須賀市立市民活動サポートセンター館長・高橋　亮）